社会科学習指導案

資源は「めぐみ」か「のろい」か

授業者：附属池田中学校
藤井大介

1．対象 附属池田中学校1年 B 組

2．単元目標

・知識及び技能に関して

①世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。

②アフリカ州に暮らす人々の生活や産業を基に、特色や課題を大観し理解する。

・思考力、判断力、表現力等に関して

①世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。

②アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し表現する。

・学びに向かう力、人間性等に関して

鉱物資源をめぐる地域間の相互依存関係を自らの生活との関わりから捉え、産出地域と消費地域の双方にとってよりよい関係とは何かを、平和で持続可能な社会の実現を視野に主体的に追究しようとする態度を養う。

3．指導に当たって

（1）思考スキル

思考スキル	教科の解釈
構造化する	地理的事象や国家、産業、生活や文化などについて、関係性や因果関係、空間的相互依存作用などを関係づけることができる力。
理由づける	資料に書いてあることや事実などから何が言えるかを自らの考えだけでなくその理由を体験や情報から整理することができる力。
多面的に見る	事象や事案、人物や国家等に対して、異なる立場や評価軸、空間・時間などに注目し、視点を切り替えて思考する力。

（2） 教材観

中学校社会科地理的分野における世界の諸地域の学習では、小学校 6 年生で学んだ日本と関係が深い国の学習を基に、世界を 6 つの州にわけ、経済問題や環境問題など関連する社会課題を取り上げ、未来を生きる我々がどのように課題と繋がり解決するために向き合うかというグローバルな視点を養う。

アフリカ州では今もなお、食糧問題や環境問題、資源の採掘に関する問題や人口問題などの社会課題がいくつも見られる。それらの課題は地理的・自然的な条件や歴史的な背景など複数の要因が複雑に絡み合っている。授業を通して、本校社会科の教科目標である「平和な社会をつくろうとする人」の育成を目指すため、アフリカ州における地域の課題が地球規模の課題になっていることを資源や食糧問題を通して考察し、自分と社会課題の結びつきをとらえる力や課題に対してどのように関われるかを主体的に思考する力を養う。

また、授業の中で生徒の思考力の伸長を図るため、思考スキルを積極的に明示する。本単元では「構造化する」スキルを発揮していくことで、空間的相互依存作用にある資源がどのように他の国や日本と結びつくかを構造的に理解する。さらに、「理由づける」スキルを使うことで、事実と根拠を結びつけそれを言語化して説明する力を育む。そして、「多面的にみる」スキルを通して、立場や国などの異なる視点からそれぞれのジレンマや利益などを考察する。農業や資源などのアフリカ州の産業構造の学習を思考スキルを駆使しながら学習することで、不透明で将来の予測が困難な時代においても、グローバルな視点で他者と協働できる意識を育むことがねらいである。

（3） 生徒観

本学年の生徒は、デジタル機器を用いた情報収集や思考ツールの活用に親しんでおり、視覚的な情報整理や協働的な対話学習に対して柔軟に取り組むことができる。また、ペア学習やグループ活動などには積極的に取組み、自分の意見を主張したり、他者のアイデアを柔軟に受け入れたりすることができる。

一方で、確実な「正解」を早急に求めがちな傾向がある。そのため、根拠に基づいて自分の考えを深めたりすることに心理的なハードルを感じる生徒も少なくない。また、答えが一つではない課題に対して試行錯誤を重ねたり、多くの情報の中から必要なものを選択し、複数の情報を比較したり、それぞれの事象の背景や因果関係を捉えながら自分なりの考えを深く形成したりすることなどについては、十分な経験が必要だと感じられる。

指導にあたって思考スキルの活用や協働的な活動を取り入れることで、失敗を恐れず粘り強く探究する態度や主体的な学びを育んでいきたい。そうして、社会的事象を多面的・多角的に捉え、自ら問いを持ちながら社会に関わろうとする姿勢になることを期待する。

（4） 指導観

教科書には「アフリカ州が資源に恵まれている」、「スマートフォンや自動車の部品などに使われるレアメタルが採掘される」といった内容が記されているが、本時では資源が原因で生じる別の側面について思考スキルを用いて多面的に考察していくことをねらいとする。加えて、教科書には「外国企業に土地が奪われるなどの問題も起こっている」と課題についても若干触れられている。しかし、アフリカ州が抱える課題は気候や歴史的な背景、他国との格差、内政の不安定さなどが複雑に絡みあっていることから、課題や現状を多面的に捉えることで事象を見極め、最終的に本校社会科が目指す「平和な社会をつくろうとする人」の育成となるよう指導する。

具体的には、アフリカ州の鉄道網と鉱山の結びつきから、アフリカ州の鉱業の発展について整理する。アフリカの鉄道が資源や鉱物を運搬する目的が見られることを、地図と鉱山を関連付けて学習する。本時では鉱物の中でもタンタルに注目する。タンタルは鉱産資源の中でも紛争鉱物として取り扱われ、タンタルを多く産出するコンゴ民主共和国で起きている問題に注目しながら、タンタルを取り巻く問題は地域の課題ではあるものの、この資源が世界中をめぐって加工されていることから地球規模の課題になっていることを意識させる。さらに、地球規模の課題になっているタンタルの課題は最終的にスマートフォンなどの身近な製品となって生徒たちの側にあることから、「わたしの問題」として還ってきていることに気づき、平和で持続可能な社会になるためにわたしたちや日本に何ができるかを学習内容を整理しながら多面的に考察し自分の言葉で表現できるようにする。

また、本時では「構造化する」、「理由づける」、「多面的にみる」のスキルを重点的に取り扱うことで思考力の伸長を図る。「構造化する」力を通して、アフリカ州の鉄道・鉱山・港の結びつきを地理的な見方・考え方を通して理解し、タンタルが加工され付加価値が付くしくみをサプライチェーンから把握する。しかし、付加価値は必ずしもすべての国に還元されず、特に産出国のコンゴ民主共和国は最終的な商品価値とのギャップがあることを構造的に考察する力を育成する。「理由づける」では、コンゴ民主共和国におけるタンタルの採掘や流通が、なぜ紛争や人権問題と結びつくことがあるかを紛争鉱物という視点で考察していく。そのなかで紛争鉱物の意味と、採掘・輸送・取引の流通とを結びつけながら論理的に説明していく力を育成する。さらに、武装勢力との関りから鉱物の適切な取り扱いについて、鉱物の価値や貧困の構造から、自分の言葉で説明できるようにする。「多面的にみる」スキルでは立場や条件の違いでタンタルをめぐる利益や不利益がどうあるのかを考え、課題がどこにありわたしたちや日本がどのように関わることができるのかを考察する。最後に、授業通して思考したことの結びとして、「課題の自分化」行う。大きな課題に対して自分にできることを多面的に考察しながら、社会が自分事としてつながっていることを考察する。

これらのスキルの育成を通して、教科書の内容をさらに多面的にとらえ、誰か（何か）にとってはどんな利益や不都合があるかを考えることで、「平和をつくろうとする人」へ近づけていきたい。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ・アフリカ州に暮らす人々の生活や産業を基に、アフリカ州の特色や課題、多様性を大観し理解している。	・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 ・アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・鉱物資源をめぐる地域間の相互依存関係を自らの生活との関わりから捉え、産出地域と消費地域の双方にとってよりよい関係とは何かを深めようとしている。 ・平和で持続可能な社会の実現を視野に主体的に追究している。

5. 単元指導計画

時	ねらい・学習活動
1	アフリカ州の地形的特色や雨温図から気候的な特色、人口などを理解する。 言語の違いや国境などからアフリカ州のもつ歴史的な背景を理解する。
2	カカオやコーヒーの事例から持続可能なアフリカ州の農業について考察する。 モノカルチャー経済の功罪について理解する。
3 (本時)	レアメタルや金の産出などアフリカ州の資源が世界を支えていることを理解する。 アフリカ州の資源を多面的に考察し、地球規模の課題に対し自分ごととして考えることができる。

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

①資源を産出する国や利用する国など、現在の世界は相互依存作用の中で成り立っていることを理解し、資源の移動や加工の過程で本当に平和的かつ平等に取引されているか判断できる。(思考力・判断力・表現力等)

②アフリカ州の資源に関する課題を理解し、資源問題を地域の課題としてだけでなく地球規模としてとらえながら自分事として多面的・多角的な思考を身に付ける。(思考力・判断力・表現力等)

(2) 本時の評価規準

①に対して、資源の動きの中で、アフリカ州と資源を使う国の関係を自分の言葉で説明している。また、資源が加工されている中で、どこに利益があり負担が残るかを考察している。(思考・判断・表現)

②に対して、空間的相互依存作用にある資源と加工品の関係から、アフリカ州にある資源問題は日本を含めた資源を利用する国やそれを使うわたしたちにも関係があることを理解しながら、持続可能な資源の利用を多面的・多角的に説明している。(思考・判断・表現)

(3) 育成する思考スキル

本時の学習で育成する思考スキル	本単元における解釈	本時における解釈
構造化する	・アフリカ州の気候と地理を人口の分布や都市の発達と構造化する。	・地図や鉄道網の図から鉱山と港、都市の関係を読み取り、どのようにアフリカ州の産業が発達したのかを読み取る。
理由づける	・資源や農産物を産出するアフリカ州と、それらを加工・利用する国を構造化する。 ・地域の課題がどのように地球規模になりまた、わたしの課題へと還ってきているかを根	・タンタル輸出のサプライチェーンの中で価値が増える原因とアフリカ州に残る負担の関係からアフリカ州の資源問題を考察する。 ・アフリカ州の持続可能な発展のために認証鉱物

多面的にみる	拠をもって説明する。 ・持続可能なアフリカ州の発展のためにどのような手段や関わり方ができるかを考える。	の制度がどのように意味をなし、今後の人々に還元されるか読み取れる。 ・タンタルの採掘問題はコンゴだけでなく、わたしに関係あることと認識し、平和な世界を創造するためにどのように関われればよいか考える。

(4)展開

学習過程	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入5分	・スマホの中にあるレアメタルのタンタルを説明する。	・アフリカ州の課題(地域の課題)として意識させる。	
展開①25分	**世界を巡るコンゴ産のタンタルはコンゴに利益をもたらしているのか**		
	・アフリカ州の鉄道網と鉱産・港の関係を整理、世界を巡るタンタルの付加価値を確認する。	・鉄道網の配置が鉱物の輸送と関係していくことを気づかせる。タンタルは加工によって付加価値が高まる一方、産出国に利益が還元されているわけではないことを考えさせる。	・思判表 ワークシート
	・紛争鉱物と武装勢力の関係と世界の企業が鉱物の認証制度を採用した理由を考察する。	・武装勢力への資金流入や人権侵害のリスクを減らすことを目的として、産地や流通経路を確認する仕組みが設けられていることに気づかせる。	・知技 ワークシート
展開②15分	**アフリカ州の課題は地球規模の課題で最後に「わたし」にどう関係しているのか？**		
	・3つの立場から鉱物の認証制度の利益と不利益について多面的に考察する。	・立場によってメリットだけではないことを気づかせる。また、良いことのはずが巡り巡って現地の人に不利益があることを意識させる。	
	・タンタルを利用するわたしや日本には何ができるか自分の言葉で表現する。	・自分でできることは少ないが、アフリカ州の課題が自分にも関係あることを認識させ、自分事として考えさせる。	
結び5分	・振り返りとして OPP シートを記入する。	・本時の一番の学びなどをまとめさせる。	・主 OPP シート

(4)準備物

教科書、地図帳、iPad、授業プリント

7.参考文献

●文部科学省.(平成29年告示).中学校学習指導要領解説 社会編